

岐阜県郡上八幡と青山の関係

2017年7月6日
NHKラジオ 他

郡上八幡と言えはまず頭に浮かぶのが踊り！
平成の現在でも、盆踊りの期間の4日間は徹夜で踊りがつづき、住民5000人に対し4万人以上の観光客が訪れ、街は踊り一色になるのです。

郡上おどりの種類は全部で10種類。種類が多いのと男性の踊り手が多いのも郡上おどりの特徴です。

国指定重要無形民俗文化財の郡上おどり、愛好者も各地から集まり、期間中会場は、踊り手であふれます。

7月中旬から9月上旬にかけて33夜にわたって踊られます。日本一のロングランの盆おどりで、郡上八幡の夏はおどりとともに始まり、おどりとともに終わるといえます。会場はひと晩に1カ所ずつ。これは町内あちこちでの縁日祭りにちなんでおこなわれるもので、新旧入り交じった感じがしないでもないですが、そのうちの多くからこの町に残る伝統や風習を垣間見ることができます。



0575-67-0002（郡上八幡観光協会）

郡上おどりは400年にわたって城下町郡上八幡で歌い踊り続けられてきたもので、江戸時代に城主が士農工商の融和を図るために、藩内の村々で踊られていた盆踊りを城下に集め、「盆の4日間は身分の隔てなく無礼講で踊るがよい。」と奨励したため年ごとに盛んになったものです。そんな歴史背景から郡上おどりは誰もが、つまり観光客も地元の人もひとつ輪になって踊るという楽しさがあるのです。ここに郡上おどりは「見るおどり」ではなく「踊るおどり」といわれる理由があります。



なぜ？ 東京 青山で「郡上おどり」か？

郡上八幡城主・青山家がかまえた江戸屋敷の青山家の名字・青山が江戸の地名になり、現在に続いています。江戸時代の青山家屋敷の大半は現在の都立の青山霊園になり、現在につながっています。

郡上八幡城主・青山家の菩提寺が青山、銀座線外苑前駅近くの梅窓院(ばいそういん)にある(青山の地名の由来も青山家からついた)という縁から、東京青山に本場の郡上おどり保存会を招いたことからはじまった。

国指定重要無形民俗文化財の郡上おどり、愛好者も各地から集まり、期間中会場は、踊り手であふれます。

郡上おどりは、見て楽しむ踊りではなく自分も踊って楽しむものです。振り付けも簡単なので、見よう見まねでも、踊りの輪に参加できます。踊る開始前(午後4時から予定)、簡単な講習会も行いますので、参加下さい。ゆかたで出かけて、夏気分を先取りして下さい。